

# 訪看新聞 10月号



何気なく飲んでいる「薬」のこと、どれだけご存知でしょうか。  
豆知識として知っておいてもいいかも…というものをご紹介します。

## ニトログリセリン

ニトログリセリンは、ダイナマイトの原料でもありますが、火薬がなぜ狭心症に使用されるようになったのでしょうか？

昔ヨーロッパの火薬工場で働いていた作業員が休暇明けに出勤して仕事を始めると、ひどい頭痛やめまいに悩まされるという苦情が相次ぎました。一方で、狭心症を患う従業員が自宅では発作が起こるのに工場では起こらないというエピソードがあり、これに注目した医師が「火薬には血管を拡張させる作用があるのではないか？」と考えて研究したことで発見されたといわれています。

ちなみに、現在医薬品として使われている硝酸化合物は、硝酸イソソルビドなどのニトロ基をもつ硝酸系の薬品が主で、医薬品のニトロをいくら集めても爆薬にはならないし、医薬品が爆発事故を起こすこともありません。

引用：「こんなにも面白い医学の世界 第1回 火薬が心臓病を治す？」より  
[https://www.yodosha.co.jp/rnote/trivia/trivia\\_9784758115391.html](https://www.yodosha.co.jp/rnote/trivia/trivia_9784758115391.html)

## インスリン

インスリンは、21個のアミノ酸と、30個のアミノ酸が結合したホルモンです。仮に、インスリンを内服すると、他のタンパク質同様、消化され、アミノ酸に分解・吸収され、栄養になってしまいます。ヒトの体で、インスリンがホルモンとして作用するためには、消化管を通らないルートで、体内にいれる必要があります。自己注射として、インスリンの皮下注射が行われているのは、このためです。

これまで、点鼻インスリンや、肺から吸入するインスリンが、研究されていますが、実用化には至っておりません。

引用：「新宿区荒木町（四ツ谷・四谷三丁目・曙橋）住友内科クリニックのブログ インスリンはなぜ注射？」より

<http://blog.livedoor.jp/sumitomoclinic/archives/67213591.html>